

平成 21 年度ユニバーサルデザイン (UD) 教育の取組

1 学校名	嬉野市立嬉野中学校		
2 所在地	嬉野市嬉野町大字下宿甲 2 7 8 6 番地		
3 校長名	木原 正和		
4 学級数 児童生徒数	1 4 学級 4 0 5 人	5 実施学年 児童生徒数	3 年 1 5 0 人

6 取組のねらい

義務教育を終えようとしているこの時期に、自分たちが生まれ育った嬉野のまちや暮らしを「ユニバーサルデザイン」の視点に立って見直し、「おもてなしのまち嬉野」「人にやさしいまち嬉野」を今後担っていく生徒を育成する。

7 取組の実際

(1) UD についての講話

人の立場に立って物事を考える

平成 21 年 11 月 4 日(水)：「佐賀嬉野バリアフリーツアーセンター」の事務局長から講話をしてもらった。「UD とは何か」「嬉野の現状」「バリアフリーツアーセンターと取り組み」等の話を聞き、



- ・ 普段気づきにくい困ったこと。
- ・ 工夫されている施設や生活用品。
- ・ 「やさしさが基本」とか「全ての人にバリアがある」など UD やバリアフリーの考え方。
- ・ 来てよかった、住んでよかったと思える町づくり。などについて話を聞き、具体的な取組状況を把握することができた。

(2) 嬉野高校からの出前授業

嬉野高校から UD についての出前授業

平成 21 年 11 月 17 日(火)：嬉野高校の出前授業で、UD についての高校の取り組みを、話してもらったコースを設定し、取組状況の話聞いた。

(3) 校区内の UD 調査

まちや建物の中の UD 調査をし、みんなが住みやすい町づくりの提案を行う

平成 21 年 11 月 19 日(木)：班別で校区内の UD の現状について実施調査を行った。

- ・ 学校や店舗、公園、道路などを調査して、色々な立場の人の視点から見直して、多くの人が使いやすいよう工夫されたところや、使いにくいところを発見する。
- ・ 自分たちの住む町の学校や店舗、公園、道路などで、どういうところを変えれば、多くの人がもっと住みやすくなるかを、自分たちで考える。
- ・ その結果をまとめ、報告しあう。嬉野市にも報告することを目標に調査を行った。

間口が広い公衆電話、スロープがついた入口などUD化が進んでいる様子を知ると共に、実際に歩いて見ることで歩道の段差などの町中にあるバリアを実感した。

その後調査結果をまとめ、市教委を通じ市当局に報告した。



8 取組の成果と課題

成果： 講演を聴き、現地調査を行い、調査結果をまとめるという一連の学習で、UDについて考えるきっかけとなり、身近なところから取り組もうとする意識が高まってきた。

課題： 今後の継続的な取り組みが必要である。

教育課程の中への位置づけと、時間の確保が課題である。

講師招聘、調査活動に対する予算措置が必要である。